

洋服感覚で着こなす、帯を選ばない無地の紬。



「ベーシックな色を選べば、帯で変化がつけられます。このグレーがかった茶系の紬なら年配になっても着られます」(原さん)

真綿を紡いだ草木染の紬は、素朴な温かい風合い。帯は、地紋の上に染めた、紅型の名古屋帯。地味な紬も、こんな明るい帯と合わせれば、ちょっとした外出着になる。我が家でお茶会、おもてなしにも最適。

「本当に帯ひとつで、全体の印象がこんなに若々しくなるんですね」

と森口さん。

更紗の帯、黒地の博多献上、アンティーク。どんな帯とも意外に合ってしまう。洋服でいうところの着まわしが楽しめるきものだ。

吉田美保子作・グレーがかった濃茶の紬の着物46万5000円、玉那覇有公作・紅型の九寸帯38万円(共に仕立て上がり)、帯×高麗組オリジナル1万1550円、帯揚げ 柳朱子濃淡1万1550円。以上、銀座もとし 和織 ☎03・3538・7878